

第4回

万葉の郷とつとりけん

全国高校生短歌大会

日時 令和四年十一月十三日(日)

午前十時から正午まで

会場 県民ふれあい会館 ホール

■主催 鳥取県

■後援 鳥取県教育委員会 鳥取県高等学校文化連盟 鳥取県歌人会 朝日新聞鳥取総局 共同通信社鳥取支局 山陰中央新報社 産経新聞社
新日本海新聞社 時事通信社鳥取支局 中国新聞鳥取支局 毎日新聞鳥取支局 読売新聞鳥取支局 NHK鳥取放送局 TSKさんいん中央テレビ
テレビ朝日鳥取支局 日本海テレビ BSS山陰放送 いなびぴょんぴょんネット 中海テレビ放送 日本海ケーブルネットワーク 鳥取中央有線放送株式会社
(順不同)

とっとり県民カレッジ連携講座、第20回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2022参加事業



次 第

1. 開会
2. 準決勝

題 先鋒「手」、中堅「高」、大将「送」

第1回戦

銀木犀(鳥取県立鳥取東高等学校) × らいちぽんなこったマーボー(神奈川県立光陵高等学校)

第2回戦

アップルシナモン(神奈川県立光陵高等学校) × 豊立(東京都立豊多摩高等学校・立教池袋高等学校)

第3回戦

金木犀(鳥取県立鳥取東高等学校) × 高田PLANTSⅡ(高田高等学校)

【休憩】

3. 決勝

題 先鋒「流」、中堅「音」、大将「広」

4. 結果発表
5. 表彰式

審査員

本選大会・
審査員特別賞



大辻 隆弘氏

『未来』編集発行人・選者。
現代歌人協会会員、現代歌人集会理事、日本文藝家協会会員、中部日本歌人会副委員長、第29回斎藤茂吉短歌文学賞、第12回島木赤彦文学賞受賞、第3回佐藤佐太郎短歌賞受賞。
歌集『景德鎮』『樟の窓』評論集『近代短歌の範型』など著書多数。2019年度NHK短歌選者。
高校教諭(国語科)。

各対戦の判定
パフォーマンステ別賞
審査員特別賞



穂村 弘氏

歌人。1962年札幌市生まれ。短歌のほかに評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。
著書に『手紙魔まみ、夏の引越し(ウサギ連れ)』『ラインマーカーズ』『はじめての短歌』『世界音痴』により『野良猫を尊敬した日』など。
『短歌の友人』で伊藤整文学賞、『鳥肌が』で講談社エッセイ賞、『水中翼船炎上中』で若山牧水賞を受賞。
近刊に『シンジケート 新装版』がある。



江戸 雪氏

1993年に短歌を始める。河野裕子のもと「塔」短歌会にて活動した後、2021年夏に同人誌「西瓜」、2022年夏に同人誌「Lily」創刊。大阪市咲くやこの花賞文芸部門受賞。
歌集は『昼の夢の終わり』『声を聞きたい』『空白』ほか7冊あり、入門書『今日から歌人!』がある。
情感豊かで先進的な作風は、性別や年齢層を問わず共感を得ている。大阪市在住。

入選・
審査員特別賞



大森 静佳氏

1989年岡山市生まれ。高校時代に短歌と出会い、大学在学中に第56回角川短歌賞を受賞。
歌集に『てのひらを燃やす』『カミーユ』『ヘクタール』、評論集に『この世の息 歌人・河野裕子論』がある。
2018年から笹井宏之賞の選考委員を務める。「塔」短歌会編集委員。

本選大会出場チーム
入選
審査員特別賞



小島 なお氏

「コスモス」短歌会所属。歌人である母、小島ゆかりの影響を受け、高校生のとき、短歌を詠み始める。
2004年、角川短歌賞受賞。2007年、第一歌集『乱反射』(角川書店)刊行。本書により、第八回現代短歌新人賞、第十回駿河梅花文学賞を受賞。同年、第二歌集『サリンジャーは死んでしまった』(角川書店)刊行。2020年、第三歌集『展開図』(柘書房)刊行。2022年、千葉聡との共著『短歌部、ただいま部員募集中!』(岩波書店)刊行。2016年、2020年「NHK短歌」選者。日本女子大学非常勤講師。

出場チーム

※準決勝対戦順



銀木屋

鳥取県立鳥取東高等学校
(鳥取県)

おかじま まこ いいだ ありさ いしお みう
2年 岡嶋 真子 2年 飯田 有彩 2年 石尾 美羽

こんにちは、鳥取東高校の銀木屋です。この度は万葉ゆかりの地、地元鳥取で開催されるこのような素晴らしい短歌の全国大会に出場できてとても嬉しく思います。はじめてなりに精一杯頑張ります。



らいちばんなこったマーボー

神奈川県立光陵高等学校
(神奈川県)

かした こはる いけがみ まお しまづ りょう
1年 榎下 小春 2年 池上 真央 2年 島津 稜

初めまして！らいちばんなこったマーボーです。パンナコッタが好きな島津とマーボー豆腐が好きな榎下とライチが好きな池上で組んだチームです。日々の活動では、人狼などの言葉を使ったカードゲームをやりながら培ってきた言葉を駆使して短歌を作っています。個性豊かなチームメンバーが作る短歌も個性が爆発中！？私たちが送る個性的な31文字の世界をお楽しみください！



アップルシナモン

神奈川県立光陵高等学校
(神奈川県)

ふじい なお いわもとあやめ おの まなか
2年 藤井 渚央 1年 岩本 菖 3年 小野 愛加

神奈川県立光陵高校から来ました、三学年混合のチーム「アップルシナモン」です。チーム名を決める際に一年の岩本が「アップルパイが食べたい」と言ったという理由で、このチーム名になりました。それぞれが演劇部、弦楽部などと文芸部を兼部しており、忙しい中で活動しています。個性豊かなパフォーマンスと試行錯誤を重ねて完成した短歌を、楽しんでいただけたらうれしいです！



豊立

東京都立豊多摩高等学校・立教池袋高等学校
(東京都)

おばた よう なにわ こまき さとう ななみ
2年 小幡 曜 2年 浪花 小槇 2年 佐藤 七海

はじめまして。豊立です。私たちは現代短歌が大好きな豊多摩の浪花と佐藤が、主戦場は俳句だけれど短歌にも通じる素晴らしい感性を持った立教池袋の小幡をスカウトしたことによって生まれたチームです。三人ともそれぞれの発想を存分に生かし、己を貫いて作歌しました。私たちの歌が最強であると胸を張って言えます。短歌という文芸への大きな愛と、私たちの最強の短歌をもって、優勝を掴み取ります。



金木屋

鳥取県立鳥取東高等学校
(鳥取県)

おかむら りお すなだ なつき おぎさ ゆい
2年 岡村 梨央 2年 砂田 夏希 2年 小笹 由惟

こんにちは！鳥取東高校2年4組金木屋です。私たち3人は短歌についてあまり詳しくないですが、自分たちの経験を生かして歌を詠むので、応援よろしくお祈りします。



高田PLANTS II

高田高等学校
(三重県)

はるた ゆうか さとう さくら かとう はるか
1年 治田 優花 1年 佐藤 桜 1年 加藤 晴香

こんにちは。高田高校文芸部員で結成された「高田PLANTS II」です。第2回の大会に出場した「高田PLANTS」に続く2番目のチーム、という理由でこの名前にしました…というのは建前で、締め切り日までチーム名を決めておらず、「TS」と「II」で語呂が良いからこれにしよう！というノリで決まりました。メンバー全員でこの大会に楽しく、また真剣に挑みたいと思います。対戦する他校の皆さん、私たちによろしくお祈りします。

準決勝作品

第2回戦					
アップルシナモン			豊立		
大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒
信 指先で紡ぐ会話の端っこを紙飛行機にのせて、送	た塔に いつの日か私も大人になるのかな 高くて黒い尖っ	溶け落ちるオレンジの空 長くのびる影の中だけ 手をつながせて	歯磨きをしながら今家出たというきみが来るのは 送り火のころ	高慢な扇風機から避けられて購入者だけ当てられ る風	手のひらに刺さった鉛筆の芯は今も心臓目指して 進む
小野 愛加	岩本 菖	藤井 渚央	佐藤 七海	浪花 小槇	小幡 曜

第1回戦					
銀木犀			らいちばんこったマーボー		
大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒
の話 大空に小さなツバメ送り出す来年間かせてその旅	友達と話してる君見ているとふと目があつて高く なる波	無機質に赤く凍えて私の手鍵盤上で固まっていく	ほろほろと舞い落ちてきた花びらは君を見送るセ ピアのまままで	下か上か横か 高く投げられ落ちるまでをラバー 斜めに待つその時を	プリントを貰った時に触れかけた君の手先が熱 かったなんて
石尾 美羽	飯田 有彩	岡嶋 真子	島津 稜	池上 真央	樫下 小春

第3回戦					
金木犀			高田PLANTSⅡ		
大将	中堅	先鋒	大将	中堅	先鋒
夕焼けを一緒にに入れて送る手紙放課後静かな廊 下を歩く	公園の噴水高くあがる午後このまま私を連れて いってよ	除光液で私の右手の青色を落としたとたん夏が終 わった	でつぶりなオタマジャクシがゐたのです早送りでき ない日常のすみに	譜の中の一オクターヴ上のレが薄れて漏れた 錆び た高音	「ばいばい」の余韻の染みこむミサンガは右の手首 で小さくふれる
小笹 由惟	砂田 夏希	岡村 梨央	加藤 晴香	佐藤 桜	治田 優花

大辻隆弘賞

手のひらに刺さった鉛筆の芯は今も心臓目指して進む

立教池袋高等学校 二年 小幡 曜

穂村弘賞

夕焼けを一緒にに入れて送る手紙放課後静かな廊下を歩く

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 小笹 由惟

江戸雪賞

でつぶりなオタマジャクシがゐたのです早送りできない日常のすみに

高田高等学校 一年 加藤 晴香

大森静佳賞

いつの日か私も大人になるのかな 高くて黒い尖った塔に

神奈川県立光陵高等学校 一年 岩本 莒

大人になることはすなわち、「高くて黒い尖った塔」になることだ。そんなふうに感じている「私」の、ひりひりと醒めた認識に惹かれた。手の届かない尖塔はある種の傲慢さやつめたさの象徴か。なかでも「黒い」という形容が印象的で、「塔」全体が黒々とした影としてイメージされる。

おそらく、いざ大人になったら自分が「塔」だということに気づけない。人間とか未来といったものに対する、きれいごとでも無邪気でもない真摯な心もとなさが表現されている。そして、「なるのかな」というやわらかな口調によって、それがあくまで今このときの気持ちのたゆたいである感じも伝わる。子どもと大人のはざまに投げ出された「私」の、読者の胸ぐらをつかむ力のある一首。

小島なお賞

でつぶりなオタマジャクシがゐたのです早送りできない日常のすみに

高田高等学校 一年 加藤 晴香

「でつぶり」「ゐたのです」の旧かな遣いのおもしろい味わいと、物語を語るような不思議な口調。オタマジャクシのおおきくて丸々と太った存在感が、過ぎてゆく日常をとどめる重しのようにです。テレビや動画とはちがう日常の時間。どんなに退屈でも、どんなに楽しいことが待っていても早送りすることはできません。卵だった過去や蛙になる未来をまるで思っていない様子で、水のなかを漂うオタマジャクシ。その姿を作者はきつと毎日覗いていたのです。きのうの姿ときょうの姿は同じように見えて、決して同じではなかったはず。オタマジャクシは今の大切さの象徴だったのかもしれない。

入選作品

笑い声空の高さを追うように鼓膜を揺らす君のファルセット

青森県立八戸高等学校 一年 高橋 里奈

しゅうまいのように蒸される帰り道高層ビルの窮屈な空

星野高等学校 二年 伊藤 音々

歯磨きをしながら今家出たというきみが来るのは送り火のころ

東京都立豊多摩高等学校 二年 佐藤 七海

手のひらに刺さった鉛筆の芯は今も心臓目指して進む

立教池袋高等学校 二年 小幡 曜

いつの日か私も大人になるのかな 高くて黒い尖った塔に

神奈川県立光陵高等学校 一年 岩本 莒

プリントを貰った時に触れかけた君の手先が熱かったなんて

神奈川県立光陵高等学校 一年 檜下 小春

溶け落ちるオレンジの空 長くのびる影の中だけ手をつながせて

神奈川県立光陵高等学校 二年 藤井 渚央

指先で紡ぐ会話の端っこを紙飛行機にのせて、送信

神奈川県立光陵高等学校 三年 小野 愛加

朝昼晩朝晩朝晩早送りされてる日々にかいいな花を

神奈川県立光陵高等学校 三年 高橋 愛花

君の上げる高いトスが好きでしたギャラリー越しに見送った夏

岐阜県立飛騨神岡高等学校 三年 井上 実咲

でつぶりなオタマジャクシがあたのです早送りできない日常のすみに

高田高等学校 一年 加藤 晴香

「ばいばい」の余韻の染みこむミサンガは右の手首で小さくふれる

高田高等学校 一年 治田 優花

高空の君が見ている冠菊そのほつぺたを僕が見ている

兵庫県立伊丹高等学校 二年 大江 萌楓

友達と話してる君見ているとふと目があつて高くなる波

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 飯田 有彩

無機質に赤く凍えて私の手鍵盤上で固まっていく

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 岡嶋 真子

除光液で私の右手の青色を落としたとたん夏が終わった

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 岡村 梨央

高くなったねと想うわたしの奥底に線がずれてく寂しさあるかも

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 岡嶋 菜月

夕焼けを一緒にに入れて送る手紙放課後静かな廊下を歩く

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 小笹 由惟

あの人と高い空とが近かったちよつとだけでも広げたかった

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 加藤 綜真

高いビルずっと一緒に見上げたい僕らの首が痛くなるまで

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 城戸 洋輝

鍵盤を大きなその手で包み込む音は優しい夕暮れの色

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 小谷 空

本棚でほこりをかぶったアルバムが僕へ送った海のおい

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 山下 啓太

高く飛べもつと高くと打ち上げた白いボールは青く染まった

鳥取県立鳥取東高等学校 二年 米井 千咲

再会の言葉は声にならなくて行き場のない手ぶらんとおろす

鳥取県立米子東高等学校 三年 森田 悠芽

舞い戻る貸した教科書手紙付き振るとはらはら思いがはらはら

岡山県立岡山芳泉高等学校 三年 小椋 香奈子

